

美術科(中学校)の 成果を上げるための二つの提言

Part 2 ; 図画工作科での学びをどのように引き継いでいくか

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

日文

検索

未来をにう子どもたちへ
日本文教出版

『まなびと+vol.5』は中学校美術科に焦点を当てた内容であり、vol.1とvol.3の続編でもあります。Part1では創造活動の喜びに焦点を当て、本Part2では図画工作科との繋がりに重点を置きました。併せてお読みください。

1. 図画工作，中学校美術科の内容の繋がりや相互理解のために(松井一雄)

本Part2は、中学校美術科の成果を上げるための提言として、小学校図画工作科との一貫教育に焦点を当てた内容です。本誌で紹介する神奈川県横浜市の取り組みは画期的であり、皆様の指針になることを期待します。

これまでも『まなびと+vol.3』で、東京都品川区及び北区の取り組みを一部紹介しました。国も一貫教育を進める検討に入っている状況を考えると、一貫教育の推進はこれからの教育の最重要課題です。

特に品川区では、小中学校の9年間で小学校4年までの4年間、5・6年と中学校1年の3年間、さらに中学校2・3年の2年間と、児童・生徒の発達の段階に応じて指導の内容を3つの段階にまとめる先駆的な取り組みを進めています。

私が品川区で取り組んだ時、9年間の入口である小学校の低学年と出口である中学校3年は、各校種の専門性・独自性に委ね、一貫教育の焦点は小学校5・6年と中学校1年にあると考えました。

●小学校図画工作科と中学校美術科の繋がり

入口						出口		
1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
小学校図画工作科の内容						中学校美術科の内容		
						※		

※この3年間は、小学校図画工作科と中学校美術科の特色を工夫して題材に取り入れる。

小学校3・4年までは、描く、つくるなどの活動をする事自体に楽しさや喜びを見出しますが、年齢を重ねるにつれて、自分の思いを形に表現しようとする意識が芽生えてきます。理想や心情など抽象的な思考に興味をもつようになってきた表れです。

また、客観的にもものを見る目が育ち、写実的な表現や技法などに興味をもつようになってきます。児童・生徒一人一人に発達の段階の違いはありますが、小学校5・6年から中学校1年あたりに、こうした成長(変化)があると考えています。さらに、中学校の高学年になると、計画的に取り組み、完成の達成感を味わうことに楽しみを見出すようになります。

学習指導要領の目標では、小学校図画工作科に「つくりだす喜び」、中学校美術科に「表現活動の喜び」と言う文言があります。児童・生徒の発達の段階の違いを理解すれば、同じ「喜び」でも、内容や質は大きく変わってくるのがわかると思います。

児童・生徒の発達の段階を考えれば、一貫教育の推進は必然であり、そのためには、異校種の指導について違いを認め、肯定的な相互理解が必要であると痛感しています。小学校図画工作科、中学校美術科は、授業の中で「喜び」を味わい、その感動体験を通して、心=情操を養うことが出来る重要な教科の一つであることをご理解いただきたく存じます。

2. 学校種間の〈相互理解〉から〈一貫〉へ(大泉義一)

昨今、小・中学校において一貫したカリキュラムを編成していくことは、小学校図画工作科、中学校美術科に限らず、学校教育課程全体において重視されている教育課題でもあります。文部科学大臣が、公立学校に小中一貫校を設置できる制度の検討に入っていることを明かしたことは記憶に新しいですし、中央教育審議会の初等中等教育分科会に、小中一貫教育特別部会が設置されたことから、小中一貫教育が、これからの学校教育のあり方を展望する上で、非常に関心の高い命題であることがわかります。

すでに先駆的な小中一貫教育を行っている公立学校の実践としては、前項でも取りあげられた品川区の取り組みが挙げられます。この取り組みは平成14年度以来、実践の積み重ねにより、全国の学校教育現場に有効な実践的知見を提供しています。

そしてその実践においては、中学校という学校文化と小学校という学校文化の〈差異〉が顕在化する

ことがしばしばあったと聞きます。そうした〈差異〉は、お互いの教育実践に対する理念の相違によるものというよりも、小学生と中学生という発達の段階の相違、小学校と中学校に求められる社会的要請の相違に端を発していることが多いようです。そしてそこから「小中一貫に対するディレンマ」とも言える困難さが生じていることも事実です。

小中一貫の目指すところは、〈いま〉の子どもたちの健全な成長であることは言うまでもありません。ですから、その理念と方法が教育実践として具現化されるためには、小・中学校双方の教師が、目の前の子どもたちの成長・発達の“ストーリー”を互いに共有していくことが必要なのではないのでしょうか。

つまり、〈一貫〉が生き生きと実現されるためには、小学校教師と中学校教師の〈相互理解〉が重要であると考えられるのです。

3. 横浜市における「カリキュラムによる小中一貫」(大泉義一)

それでは、実際にそのことを実践している取り組みを紹介したいと思います。横浜市は、平成20年2月に『横浜版学習指導要領・総則・総則解説』、翌21年3月には『同・教科等編』を策定し、その『指導資料』を作成しました。そしてその中で『図画工作科・美術科編』が作成されています¹。その指導資料においては、市内小・中学校の教科カリキュラムの基本形となるベース・カリキュラムが編成されており、これを基に教育現場でカリキュラムを編成していくことになっています。横浜市では、地区ブロックごとに施設分離型の小中一貫教育を推進しており、「カリキュラムによる小中一貫」が目指されているのです。

図画工作科、美術科のベース・カリキュラムは、次の3つから構成されています。

A：9年間の題材配列（図1）

B：各学年の年間題材配列（図2）

C：年間指導計画（題材カード）（図3・4）

Aは、小学校1年から中学校3年までの年間題材配列を一つの表にまとめたものです。どの時期に、どの学年の子どもたちがどのような学習活動を題材を通して展開しているかが見え、9年間を俯瞰することができ、9年間の連続した指導をイメージすることができるようになっています。

Bは、題材における学習活動の内容が簡単に示されているもので、Aと合わせて見ることで学習内容のバランスを確認することができるようになっています。

Cは、A、Bに示されている題材の詳細な内容が、A4サイズ1枚の小・中学校共通のフォーマットにまとめられています。

図1～4をご覧ください。図1は「A：9年間の題材配列」です。小学校1年から中学校3年までの年間の題材配列が一度に見通せるようになっていま

		4月	5月
小1	学習主題	A (2) 絵+B (1)	A (2) 絵+B (1)
	題材名	すきなものた〜くさん ねんどのおみせやさん	かみとなかよし せかいに一つのおしゃれなマイバッグ
小2	学習主題	A (2) 絵+B (1)	A (2) 立
	題材名	すてきなじかん	土からたんじょう! ゆめのどうぶつ
小3	学習主題	A (2) 絵	
	題材名	絵の具ロケットで 白いうちゅうの大ぼうけん	
小4	学習主題	A (2) 絵	A (1)
	題材名	チャレンジ! モダンテクニック	校庭は大きなキャンパス
小5	学習主題	A (2) 絵	
	題材名	春を感じて…	
小6	学習主題	A (2) 絵+B (1)	
	題材名	みんなも芸術家	
中1	学習主題	B (1)	
	題材名	一枚の絵をリレーして	
中2	学習主題	B (1)	
	題材名	美術探偵2 (現代美術のメッセージ)	
中3	学習主題	A (1) (3) 立	A (2) (3) 立
	題材名	探れインナースペース (砂と石との空間を探る)	遊ぶ ころろの形

▲図1 9年間の題材配列(A:抜粋)

す。図2は「B:各学年の年問題材配列」です。ここではさらに具体的な題材内容を知ることができるようになっています。図3, 図4はそれぞれ, 小学校図画工作科, 中学校美術科の題材における学習指導を示した「C:年間指導計画(題材カード)」です。各題材の学習指導が, 小中学校で共有されるべき〈指導原理〉によって示されています。その〈指導原理〉とは「しっかり

教え, しっかり引き出す指導」というもので, その内容は次のように示されています。「しっかり教える内容」とは, 材料・用具・安全などにかかわる知識・技能, 表現及び鑑賞の方法などにかかわる知識・技能であり, 「しっかり引き出す内容」とは, 国が示している「関心・意欲・態度」

中学校 第3学年		4月	5月
題材名 題材番号 領域・事項		探れインナースペース ① A (1) (3) 立	遊ぶ ころろの形 ② A (2) (3) 立
時数		3 H	8 H
学習の主題	主題などを基に豊かに発想・構想し, 独自の・総合的な見方や考え方を生かし, 創意工夫して美しく描くなどする。 【A表現 (1) + (3) 平】		
	主題などを基に豊かに発想・構想し, 独自の・総合的な見方や考え方を生かし, 創意工夫して美しくつくる。 【A表現 (1) + (3) 立】	石と白砂を組み合わせて美しい庭をつくり, 自分なりの見立てを行いながら空間のイメージをつくる。	
	社会的視点に立って, 豊かに発想・構想し, 独自の・総合的な見方や考え方を生かし, 創意工夫して美しく平面に表す。 【A表現 (2) + (3) 平】		
	社会的視点に立って, 豊かに発想・構想し, 独自の・総合的な見方や考え方を生かし, 創意工夫して美しく立体に表す。 【A表現 (2) + (3) 立】		江戸玩具などを参考に, 遊ぶ場面を想像し, 動きを工夫したり, 色や素材の効果などについて考えながら楽しく遊ぶおもちゃをデザインする。

▲図2 各学年の年問題材配列(B:抜粋)

「発想・構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」であるとしています。さらに指導方法としては, 「出あいの工夫」, 「場の設定の工夫」, 「共感的支援の工夫」, 「小中一貫の視点」が示されています。これらの指導内容と指導方法を, 小・中学校の教師達が共有して指導にあたっているのです。

以上のように横浜市では, カリキュラム・レベルでの学習活動の見通しを小・中学校で共有するとともに, 共通のフォーマットを通して具体的な題材を構想することにより, 小・中学校互いの〈共通点〉と〈差異〉を確認し合うことができるようになっています。そしてそこから, 中学校美術科における学習指導を見通した小学校図画工作科の学習指導が, 同時に小学校図画工作科での学習指導をふまえた中学校美術科の学習指導が生み出されていくのです。

横浜市が取り組んでいる「カリキュラムによる小中一貫」, 「指導原理の共有による一貫」は, 極めて現場的な視点によるものであり, 「2」で指摘した「小中一貫に対するディレンマ」を克服し, まさに〈相互理解〉から〈一貫〉を実現する取り組みなのです。

註

- 詳しくは, 横浜市教育委員会編『横浜版学習指導要領・指導資料・図画工作科, 美術科編』2010年(ぎょうせい)を参照してください。

第2章 図画工作科、美術科の「次」カリキュラム

<p>小学校 第4学年 A美術 (2) 工作・造形活動</p> <p>学習の主題 「生活を楽しくするもの」の用途などを考えながら、工夫して美しさを生み出すことを楽しむ。」</p> <p>学習の目標 「生活を楽しくするもの」の用途などを考えながら、工夫して美しさを生み出すことを楽しむ。」</p> <p>学習の目標 「生活を楽しくするもの」の用途などを考えながら、工夫して美しさを生み出すことを楽しむ。」</p>	<p>学習の目標 「生活を楽しくするもの」の用途などを考えながら、工夫して美しさを生み出すことを楽しむ。」</p> <p>学習の目標 「生活を楽しくするもの」の用途などを考えながら、工夫して美しさを生み出すことを楽しむ。」</p> <p>学習の目標 「生活を楽しくするもの」の用途などを考えながら、工夫して美しさを生み出すことを楽しむ。」</p>
---	---

▲図3 年間指導計画(題材カード)(C:小学校図画工作)

第2章 図画工作科、美術科の「次」カリキュラム

<p>中学校 第2学年 A美術 (1) (3) 感性・表現・鑑賞を育むことに基づき、総合的に学ぶことに基づき、</p> <p>学習の主題 「主題などを基に豊かな想像・構想し、独創的・総合的な見方や考え方を生かし、創造的に美しさを生み出すこと。」</p> <p>学習の目標 「主題などを基に豊かな想像・構想し、独創的・総合的な見方や考え方を生かし、創造的に美しさを生み出すこと。」</p>	<p>学習の目標 「主題などを基に豊かな想像・構想し、独創的・総合的な見方や考え方を生かし、創造的に美しさを生み出すこと。」</p> <p>学習の目標 「主題などを基に豊かな想像・構想し、独創的・総合的な見方や考え方を生かし、創造的に美しさを生み出すこと。」</p>
---	---

▲図4 年間指導計画(題材カード)(C:中学校美術)

4. 教科を越えた一般的な美術へ(松井一雄)

『教科を越えた一般的な美術』には、善悪を越えた感性を包括する面があると思っています。こちらは大人になってから体験すればよいと考えます。

私の中では将来、生涯学習として『教科を越えた一般的な美術』に発展させるためには、感動体験の

『心』と道徳的視点でいう『心』とは、中学校美術科であっても別物でありたいと考えています。学習指導要領や学校と言う枠の中でも『教科を越えた一般的な美術』を指導していくことで、生涯学習の視点が開けてくると考えています。



松井一雄

[前東京都教職員研修センター 東京教師道場 芸術(図画工作・美術)組教授 matuithi@west.cts.ne.jp]

1946年生まれ。品川区立中学校で荏原第二中学校長在任中、校区の小学校図画工作科と美術科の一貫教育に3年間取り組んだ。2006年から東京都教職員研修センターが推進する東京教師道場芸術(図画工作・美術)組に教授として参加し、2013年3月に退職する。



大泉義一

[横浜国立大学教育人間科学部准教授 研究室 HP: http://www.7b.biglobe.ne.jp/~oizumi-labo/]

1968年生まれ。博士(教育学)。東京都立中学校、東京学芸大学附属竹早小学校、北海道教育大学旭川校准教授を経て現職。教科教育学、授業研究、デザイン教育研究が専門。学校内外を越境する造形ワークショップ実践『アートツール・キャラバン』を展開している。

※この資料は、教科ご担当の先生のみならず、教科の枠を超えた数多くの先生方にお読みいただければ幸いです。

まなびと+plus vol.5 (Part2)

日文教育資料 [図画工作・美術]
平成26年(2014年)12月15日発行
編集・発行人 佐々木秀樹
発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33257

日本文教出版 株式会社

http://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171
東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938
東海支社 〒461-0004 名古屋東区葵1-13-18-7F-B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-11
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690